

注 意 報

農技セ第5520号
令和6年11月5日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和6年度農作物病虫害発生予察情報について

令和6年度農作物病虫害発生予察注意報第9号を発表したので送付します。

令和6年度病虫害発生予察注意報第9号

令和6年11月5日
徳 島 県

10月第5半旬に、県北部地域の冬春トマト・ミニトマト及び冬春なすについて巡回調査を行った結果、コナジラミ類の発生が平年に比べて多く、今後、幼虫や成虫による被害の増加が懸念されますので、注意報を発令します。

栽培現地では、発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：冬春トマト・ミニトマト及び冬春なす

病虫害名：コナジラミ類(タバココナジラミ)

1. 発生地域 県北部地域

2. 発生時期 11月上旬～

3. 発生程度 中～多(前年並、平年より多い)

4. 注意報発令の根拠

- (1) 10月24日、25日に行った冬春トマト・ミニトマトの巡回調査では、発生圃場率が100%と、平年(74.9%)に比べてやや高く、寄生葉率が25.7%と、平年(9.2%)に比べて高い。
- (2) 10月24日、25日に行った冬春なすの巡回調査では、発生圃場率が100%と、平年(90.7%)並の発生であるが、寄生葉率は68.0%と、平年(20.7%)に比べて高い。
- (3) 高松地方气象台が10月31日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生助長的な気象条件である。

5. 防除法等

- (1) 外部から施設内への侵入を防ぐため、開口部は防虫ネット等(目合い0.4mm以下)で覆う。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、表1、2を参考に、発生初期から防除を行う。
- (3) 花粉交配用昆虫等の有用生物を利用している場合は、農薬の影響日数に注意する。

(4) タバココナジラミはトマト、ミニトマト黄化葉巻病の原因であるウイルス (TYLCV) や黄化病の原因であるウイルス (ToCV) を媒介する。発病株は見つけ次第抜き取り、ハウス外に持ち出して適切に処分する(図1、2、3、4)。

(5) 防除については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

(URL:<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/tokushima>)

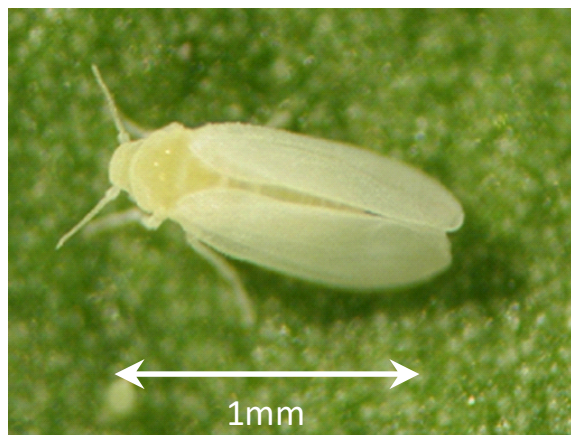


図1 タバココナジラミ成虫



図2 タバココナジラミ幼虫



図3 トマト黄化葉巻病



図4 トマト黄化病

表1 トマト、ミニトマトのコナジラミ類に使用できる主な農薬(令和6年11月1日現在)

農薬名	希釈倍数 使用量	使用時期	使用方法	本剤使用 回数	IRAC コード
アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内 但し、ミニ トマトは2回 以内	4A
アルバリン顆粒水溶剤	2000～3000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
スタークル顆粒水溶剤	2000～3000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
ベストガード水溶剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
トランスフォームフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	4C
ディアナSC	2500倍	収穫前日まで	散布	2回以内	5
アニキ乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	6
コロマイト乳剤	1500倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
コルト顆粒水和剤	4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	9B
チェス顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
クリアザールフロアブル	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	23
モベントフロアブル	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
ベネビアOD	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	28
ウララDF	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	29
ファインセーブフロアブル*	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	34
ボタニガードES	1000～2000倍	発生初期	散布	－	UNF
ボタニガード水和剤	10g/10a/日	発生前～ 発生初期	ダケ内投入	－	UNF
ゴッツA	500～1000倍	発生初期	散布	－	－

* タバココナジラミに適用。

表2 なすのコナジラミ類に使用できる主な農薬(令和6年11月1日現在)

農薬名	希釈倍数 使用量	使用時期	使用方法	本剤使用 回数	IRAC コード
アルバリン顆粒水溶剤	2000～3000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	4A
スタークル顆粒水溶剤	2000～3000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
ベストガード水溶剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
ディアナSC	2500倍	収穫前日まで	散布	2回以内	5
アニキ乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	6
コルト顆粒水和剤	4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	9B
チェス顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
カウンター乳剤	2000～3000倍	収穫前日まで	散布	4回以内	15
モベントフロアブル	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	23
ウララDF	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	29
ゴッツA	500～1000倍	発生初期	散布	—	—